

ハンガリーフェスティバル in 愛知「ハンガリーの歌声－歴史と音楽」

開催される

2022 年 5 月 29 日(日)、名古屋国際センターホールにおいて、3 年ぶりに「ハンガリーフェスティバル in 愛知」が開催されました。みなさまのご協力のもと、無事開催できたこと、こころより感謝申し上げます。

当協会会長の酒井庸行参議院議員、顧問の藤川政人参議院議員による開会のあいさつに続き、東京からおいでいただいたナジ・アニタ、リスト・ハンガリー文化センター所長にごあいさついただきました。来賓として、駐日ハンガリー大使館文化担当官のコバーチ・エメシェ氏、ハンガリーから来日中のハンガリー日本友好協会ソンバトヘイ会長シュミット・チッラ氏、当協会副会長寺西むつみ愛知県議会議員、愛知県政策企画局国際監の佐治幹夫氏、愛知県国際交流協会主事の東内典子氏、名古屋国際センター理事長の古川直樹氏のみなさまにもご臨席いただきました。



会長の酒井庸行参議院議員



顧問の藤川政人参議院議員



ナジ・アニタ

リスト・ハンガリー文化センター所長



コバーチ・エメシェ

駐日ハンガリー大使館文化担当官



シュミット・チッラ

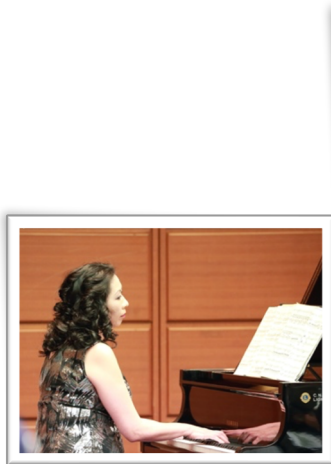
ハンガリー日本友好協会ソンバトヘイ会長



小牧市長さまからの祝電の紹介に続き、名古屋市立大学大学院人間文化研究科教授の山本明代先生により「1956年のハンガリー革命と難民学生の来日」と題した講演が行われました。1956年10月にソ連の支配に対してハンガリーの民衆が蜂起した革命が崩壊した後、アメリカに亡命した多くの若い学生たちが組織を結成して、インドネシアなどのアジア諸国を周り、日本でも活動して市民と交流したことが紹介されました。一般にあまり知られていない事実、みなさん興味深く耳を傾けていました。



講演のあとは、ソプラノの中村真紀さん、ピアノの富田智容子さんによる、「ハンガリーゆかりの歌曲の調べ」と題したコンサートが行われました。リスト、コダーイ、レハールといったハンガリーの作曲家たちの作品（コダーイ編曲の民謡「チタール山脈の麓では」、レハールのオペレッタ「メリーウィドー」から、リストの「愛の夢」など）が披露されました。中村さんの響き渡るすばらしい歌声と富田さんの華麗なピアノ演奏に、みなさん圧倒され、すっかり魅了されていました。





会場にはハンガリーの子供たちの絵とハンガリー刺繍の数々が展示されました。今回の子供の絵はハンガリー南部の町ペーチにあるセント・モール学園の子供達が描いてくれました。これらの絵は、今回来賓として参加してくれたハンガリー日本友好協会ソンバトハイ会長のシュミット・チッラさんが昨年1月に来日したときに持ってきてくれたものです。そのときに交換した犬山の子供たちの絵はすでにペーチで展示されました。

絵とともに展示されたハンガリー刺繍の作品は、当協会ハンガリー刺繍サークルの会員のみなさんが丹精込めて作成したものです。よく知られているカロチャやマチョーの刺繍の他にも、ハンガリー各地のさまざまな刺繍を見ることができました。

2年あいてしまいましたが、今回も多くの方にご参加いただきました。参加人数はスタッフも含めて165人ほどにのぼりました。そのなかには来賓も含めて8人のハンガリー人の方もいらっしゃいました。コロナ禍ではありましたが、万全の感染対策を講じて、無事におえることができましたこと、スタッフ一同安堵し、みなさまのご協力に感謝申し上げます。ありがとうございました。





「ハンガリーフェスティバル in 愛知」については、5月17日の中日新聞にも3年ぶりに開催されることが紹介されました。これをご覧になって来場された方もいらっしゃると思います。

17

愛知 総合 尾・な東・近知

2022年(令和4年)5月17日(火曜日)

中

**名古屋で29日
絵画展や歌曲**

東欧・ハンガリーの文化に親しむ「ハンガリーフェスティバルIN愛知」(中日新聞社後援)が二十九日午後一時半から、名古屋市中村区の名古屋国際センターホールで三年ぶりに開かれる。主催する県ハンガリー友好協会が参加者を募っている。

二〇〇四年に始まり、コロナ禍で二年連続して中止となっていた。今回は小牧市出身のソプラノ歌手中村真紀さんらを招いて、ハンガリーゆかりの歌曲を披露する。講演もあり、名古屋市立大の山本明代教授が「一九五六年のハンガリー革命と難民学生の来日」と題し、当時の国内での交流を紹介する。

ハンガリー刺しゅうの作品展や、現地の子どもたちが描いた絵画も展示する。協会の志村美佐子理事(モコ)は「ハンガリーは文化の宝庫。ぜひ足を運んで、魅力に触れてもらえれば」と話している。

3年ぶりハンガリーフェス













3年ぶりに開催されるハンガリーフェスティバルのチラシ

先着百人まで参加でき、一般千円、中学生以下無料。申し込みはメール(☞ mbt@hotmail.co.jp)に氏名、住所、電話番号を記載する。(岡志村さん☎0568(76)4347 (水谷元海))

ハンガリーの刺しゅうや子どもたちの絵画が並んだ2019年のフェスティバルの様子＝名古屋市中村区で(県ハンガリー友好協会提供)

ソンバトヘイ日本文化会館設立と寄付のお願い



フェスティバルの最後に、来賓として来ていただいたハンガリー日本友好協会ソンバトヘイ会長のシュミット・チッラさんからの依頼で、現在建設中の茶室への寄付をお願いしましたところ、思いがけず多くの方にご寄付をいただきました。本当にありがとうございました。

ソンバトヘイはハンガリーの東、オーストリアとの国境に近いところにある町です。シュミット・チッラさんはこれまでも子供の絵画交換、着物の展示、盆栽の紹介、和太鼓の演奏会など、数多くのイベントを手がけ、両国の友好関係に多大な貢献をしてきた方です。

こうした活動が認められたこともあり、現在、このソンバトヘイで日本文化会館の設立が準備されています。市から市内の公園にたつ築120年の建物の使用許可を取得、この建物を修復し、さらに日本庭園と茶室を作ることになっています。費用はすべて国や地方自治体などの補助金と、民間企業や一般の方々の寄付金によるものです。実際の建築作業などは、多くのボランティアの方々によって支えられています。日本企業のTDKや竹中工務店などが協力しています。

今回は竹中工務店が協力し建築している茶室および日本庭園に寄付をお願いしました。茶室の設計も竹中工務店の建築家永岡久さんがボランティアで引き受けられたとのこと。その永岡さんのお話によると、世界ではじめて腰かけることもできるように設計された茶室だそうです。ご覧のように外観はほぼ出来上がっているようです。

完成を楽しみに見守りたいと思います。ご寄付してくださったみなさま、心よりお礼もうしあげます。

Magyar-Japán Baráti Társaság – Szombathely

ハンガリー日本友好協会ソンバトヘイ

<http://mjbt-szombathely.hu/>

ソンバトヘイ日本文化会館

<http://mjbt-szombathely.hu/kozpont-2/>

facebook

<https://www.facebook.com/mjbt.szombathely>

連絡先メールアドレス

mjbt.szombathely@gmail.com

会長 Schmitt Csilla



茶室の模型



外観がほぼ完成している茶室



ソンバトヘイ日本文化会館

ハンガリーのメロディ

久野絵美

3年ぶりに開催されたフェスティバルにてハンガリーの音楽に心ゆくまで浸り、中でもコダーイの民謡「チタール山脈の麓では」を拝聴し、中村さんと富田さんの繊細かつ会場に響き渡る音楽、ハンガリーに古くから根付くメロディと語調に改めて感動しました。今回は何かハンガリーの民謡が紹介できたらと思い、あるクラシック音楽に隠されたハンガリーのメロディについて書いていこうと思います。

「Csak egy szép lány van a világon」邦題「汝が友」という曲をご存知でしょうか？メロディを聴いたら、どこかで聴いた！と頭の中を一周しヴァイオリンの奏でる音が想像できると思います。



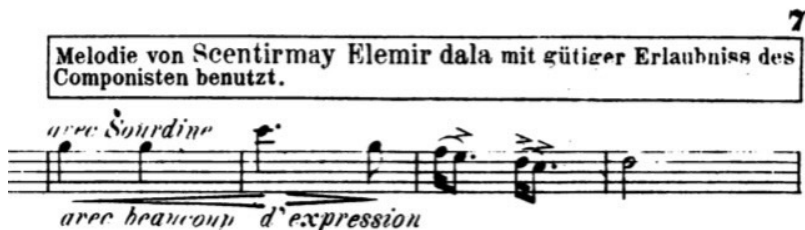
サラサーテ作曲「ツイゴイネルワイゼン」に出てくる一節です。スペインの作曲家であります。ジプシー風としてコンサートで華やかに演奏され、またポピュラー音楽として演劇やTVの中でも使われる名曲です。

上の楽譜「汝が友」は民謡の様に聴こえますが、ハンガリー人作曲家 Szentirmay Elemér（センチルマイ・エレメール）の作品で、妻に捧げた20曲ある歌曲の中の1曲でありました。Szentirmay (1836-1908) はちょうどリスト(1811-1886)とバルトーク (1881-1945)、コダーイ (1882-1967) 世代の間に生まれ、多くの歌謡曲を作曲し、フランツ・リスト協会の役職を務めたというところから、国内で地位のある音楽家だったように感じます。そんな彼の1871年に作曲した「汝が友」であります。ヒットソングとなり1875年頃からジプシー楽団などでも奏され、ジャンルを超え親しまれるメロディとなりました。

一方サラサーテは1877年春ハンガリーを訪れ、リストに紹介され、ジプシー音楽のコンサートに行き調査をしていました。この時代、リストをはじめ多くの作曲家がジプシー音楽がハンガリーの民謡だと思っていました。そうした中で「汝が友」を聴き、気に入ったとされています。

こうしてヴァイオリンとピアノのための曲としてメロディを取り入れ、1878年に出版したサラサーテであります。そんな所に一通の手紙が届きました。Szentirmay がドイツ人のピアニストに頼んでドイツ語でツイゴイネルワイゼンの成功を称えと共に「幸いな作曲家も人気の曲を持っている」=（自分の曲が人気になって嬉しい）→この曲は民謡ではない！と遠回しな文面を送ったのです。

紳士的な手紙で両者のやりとりはこれ以上なかったようですが、サラサーテは盗作について気に病んだようです。この一件以降、楽譜にはメロディが出てくる部分に「作曲者からの快い許可により使用」と書かれるようになりました。



Szentirmay Elemér

ハンガリー風の曲はクラシックの中に数多くありますが、元ネタ（オリジナル曲）について考えてみると知られざるハンガリー人作曲家との出会いがあり、より一層ハンガリー音楽の面白さにふれることができると思います。

活動報告

大塚奈美



ハンガリー人の心の故郷トランシルヴァニアの生活文化を实践する場・機会を創出し、提供するために、トランシルヴァニアのカロタセグ地方出身の夫、ラーザール・アティッラと共に各種活動を行っています。今回はその活動の近況についてご紹介します。

【農園便り】

自然の力で育てるナトゥール農園では、昨年岐阜県白川町で新たに果樹園を始め、2年目となりました。殺虫剤や化学肥料を用いずに各種果樹の栽培を試行錯誤中です。この初夏には、白すぐり (fehér ribizli) と黒すぐり (fekete ribizli)、桑の実 (faeper)、ぐみ (húsos som) が少量ずつ穫れました。さらに、今年は、ラーザールの出身地であるトランシルヴァニア・カロタセグ地方のボガールテルケでも果樹園を始めました。

ナトゥール農園の瀬戸圃場では、これまでピーツや白にんじん、さやいんげん、ディルなどの野菜と香草類や米を作ってきましたが、今年は小麦作りにも挑戦し、この6月には収穫と脱穀を終えました。これから製粉をしてパンなどを焼いてみる予定で、どのような結果になるか楽しみです。

実は、さらに日本国内で畜産及び酪農も行い、より完結した生活文化及び食文化を形成したいという野望がありますが、知識と経験・技術はあるものの、農地の購入に利用できるローン等がほとんど存在しないことから、手持ちの現金だけでは用地取得が困難で、未だ実現できていません。よい方法をご存知の方や農地を持て余している方がいらっしゃいましたら、ぜひご教示ください。

【ターンツハーズ運動 50 年】

私の専門分野はハンガリーの民俗舞踊ですが、今年はハンガリーの民俗舞踊にとって、大きな節目の年です。

ハンガリーでは、民俗音楽研究を基礎に民俗舞踊研究が発展しました。トランシルヴァニアの農村の若者たちの娯楽の機会であった「ターンツハーズ (tánc ház—ハンガリー語で『踊りの家』を意味し、振り付けのない民俗舞踊を生演奏で楽しむ場)」に興味を持ったブダペストの若者たちが、それに倣って都市にも同様の機会を作ろうと、初めて首都ブダペストで「ターンツハーズ」を開催したのが1972年5月6日でした。ブダペストからハンガリー国内に、そして国境を越えて広がったこの動きは「ターンツハーズ運動 (tánc házmozgalom)」と呼ばれ、2011年にはユネスコの無形文化遺産保護のための優れた活動として登録されました。

ブダペストで第一回のターンツハーズが開催されてから今年で半世紀になります。私自身も実践者・実演者及び研究者・伝達者として、また、ラーザールは、それらに加えて伝統保持者・情報提供者の立場でもターンツハーズ運動に携わってきました。この度、節目の年に当たり、瀬戸市の末広町商店街内のトランシルヴァニア料理店「ナトゥール・ビュフェー」にて、ささやかな展示を行っています。ターンツハーズ運動発生当時から21世紀初頭にかけてのブダペストと農村の雰囲気を、トランシルヴァニアの料理と合わせて味わっていただければ幸いです。当展示は当分の間継続しますので、ぜひ足を運んでみて下さい。

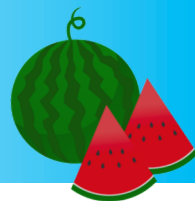


大塚 奈美

ナトゥール農園 <https://www.facebook.com/naturkert/>
ナトゥール・ビュフェー <https://www.facebook.com/naturbufe>
e-mail: naturkert2015@gmail.com
TEL: 090-8488-2039 (大塚)

懐かしい夏の思い出

チョルダーシュ・ジュラ



急に暑くなりましたね。日本もこの時期にこんなに暑くなるのは珍しいでしょうか。

ハンガリーは夏は暑いですかと、よく聞かれますが、日本の真夏に比べると少し過ごしやすいかもかもしれません。しかしハンガリーにいるときに「夏は涼しい」「暑くない」などとは一度も思ったことはないです。ハンガリーでは夏の暑さは仕事に適していないと思われています。休める仕事は休みます。たとえば、教育関係の施設、学校や大学は6月末から9月まで夏休みとなることが多いです(長い夏休み、よかったな！)。人は都市から地方へ移動する傾向があります。理想的な夏の過ごし方と言えば、街から地方へ引っ越して、だらだら過ごすことです(私だけかな？)。涼しいし、空気がいい、自然が豊か、安い、そして意外と都会より賑わうときもあります。それでは個人的な経験を元に幼い頃の懐かしい夏休みの過ごし方について紹介したいと思います。

10才になるまではブダペストから1時間程度のナジカータ(Nagykátá)という町の近くに、ひいおじいさんが建てた「別荘」(ハンガリー語だと Tanya という分類になるでしょう)で過ごしていました。夏になったら家族全員で引っ越して、のんびり過ごしていました。ここは決してリゾート地ではありません。ひいおじいさんが鉄道で働いていて、報酬としてこの土地をもらいました。ハンガリーの大平原「Alföld」のこの地域では土の質があまりよくなくて、かなり素朴なところですが、その分、割と大きめの土地をもらえて自給自足ができるほど野菜や果物が獲れました。隣に家が1軒しかなくて、それも100mくらい離れていました。あとは農協(TSZ= termelői szövetkezet)の農地が周りに広がっていました。土地の真ん中に、聞いたところによると古い線路を土台にして建てられたお家は壁が1mくらい分厚くて、いたため、夏はかなり涼しかったです。

一日の流れと言えば、午前中は町へ出かけてあれこれ買い物をするが多かったです。しかしハンガリーの家庭で食べる野菜や果物はほとんど獲れたので、そういったものはほとんど買う必要がありませんでした。しかもそのとき食べたものを振り返ってみれば、いまでいう高級品の味！牛乳は搾りたてが買え、温かいまま持って帰れるなど、いまやなかなか体験できません。



3階建てのお家、一番下が地下室でワインの貯蔵など、真ん中は普段の暮らしの場、一番上のが倉庫、後ろに別陳もあった、そしてレトロなロシア製車 LADA も懐かしい。



兄弟三人で土地の入口の前、後ろは農協の畑



親の同僚たちが葡萄の収穫を手伝い、ワインの仕込みを進めている。



昼はやっぱり暑いので、家の中で昼寝と読書の時間。しかし私は昼寝と読書もあまり好きではなく、トランプやチェスなどをやるのが好きでした。午後3-4時以降いよいよ少し涼しくなると外で遊びに専念していました。木登り、果物狩りを始め、特にチェリーの木(cseresznye fa)が好きでした。登り心地もよくて、実も大好物。実をバケツで集めてちゃんと収穫したときもあれば、木に登ったまま好きにだけ食べまくったのも印象に残っています。獲れた果物は、普段はジャム、シロップ、コンポートを作って瓶詰めすることが多かったのですが、たまにパーリンカ(pálinka)というお酒を作った記憶もあります。

さて遊びに続き、自転車でジャンプ(ugratás)やドリフティング(farolás)をするのにも夢中でした。自転車を速く走らせて後ろの車輪に急ブレーキをかけると土に長い跡が残ります。もちろん長ければ長い程カッコイイ！ジャンプはちょっとした斜面を使って前の車輪から持ち上げて自転車を飛ばして楽しんでいました。夕方になると畑の水やりをして、それはそれでまた一つの遊びで、濡れた土で今度は泥遊び！お城や水路を作ったり、かなり楽しかったです。

お風呂はちゃんとした設備がなかったもので、外の高い柱の上に設置してあった鉄の水タンクを使っていました。日差しの熱で温まったお湯でシャワー、またはコンロでお湯を沸かして桶(lavor)で身体を軽く洗っていました(mosakodás)。寝る前は農協の土地の向こう側を走っていく電車が来るのを楽しみに待っていました。夜の車両の窓から灯がポンポンポンと見えていることから「火の蛇」(tüzes kígyó)と呼んでいました。火の蛇を見て、お母さんの子守唄を聞いて寝床に就いて一日が終わり。こういった生活をとても懐かしく想って、急に皆さんにもおすそわけしたくなりました。いかがでしょうか？機会があれば皆さんもぜひ幼いころの懐かしいエピソードを聞かせてください。



写真の真ん中からちょっと左にある大きな木がチェリーの木、左の建物は便所～、背景は農協の農地。



ちょっとしたテラスがあって、涼しくなったらここでみんなでご飯を食べた。このときは他の子供たちも来ていた。

2022年 夏号をお届けします。今年は念願のハンガリーフェスティバルを開催することができました。久しぶりに皆さまとお会いすることができたいへんうれしく思いました。やはり実際に顔をあわせるのがいちばんですね。

会員みなさまのご健勝を心よりお祈りもうしあげます。

みなさまからのご意見や情報、記事などをお待ちしています。

愛知県ハンガリー友好協会

E-mail: ambt@hotmail.co.jp

<http://aicsimagyar.sakura.ne.jp/wp/>

<https://www.facebook.com/aicsimagyar>